

木曾三川分流工事 と 立田輪中悪水樋門

(立田輪中悪水土地改良区)

木曾三川の下流域にあたる立田輪中(旧八開村西部、旧立田村)は、江戸時代から治水に悩まされた地域でしたが、明治時代の大規模な木曾三川分流工事のおかげで、その頑丈な堤防で守られることとなりました。しかし反面、それまで排水していた木曾川への枵(樋門)が無くなり排水先を失いました。写真の立田輪中悪水樋門(弥富市中山町)は、この対策として立田輪中の排水を鍋田川に流すために明治35年に設けられたものです。当時の人々は、そのレンガ作りの重厚な構造物の偉容に驚き「中山の人造石樋門」と呼んでいました。ただこの建設には立田輪中の人々の大変な苦勞がありました。排水先喪失の原因である三川分流工事の一環で樋門を建設するよう、県に何度も陳情を行いましたが断られていたのです。このため、当時の立田輪中普通水利組合(立田輪中悪水土地改良区の前身)は、現在の価値で億単位のお金を銀行から借り、これを県に納めて樋門を完成させました。その後、役割を変えながら使われましたが、現在はその役目を終え、弥富市のご厚意により史跡として残され、今もその姿を見ることができます。



排水機場の名前	排水ポンプの運転状況 令和3年4月から令和4年3月までの1年間 (下段は前年度比)			
	運転日数	運転時間数	排水費用	うち電気代
立田排水機場	222日 (+8日)	2,118時間 (-5時間)	14,297,435円 (+1,414,389円)	6,436,944円 (+304,939円)
立田輪中 第2排水機場	221日 (+6日)	1,969時間 (+8時間)	14,510,044円 (+392,183円)	11,261,111円 (+754,204円)

排水機場は水を吸い込む機能上たくさんのゴミが流れてきます。処分には多くの費用が掛かりますので、水路へのゴミ捨てはやめてください。

☎ 土木課 ☎(55)7125